

今ノ世ノ人心相應ノ玩物ヨト思ヘバ、長大息シテ其花モ見ラレヌヤウニ覺ユ、此巧思ト人力トヲ以テ、五穀ノ中何ナリト、新タニ作り出サバ、後世民用ノ助トナル嘉穀ノ別種モ、生ズベキニヤ、

〔延喜式三十七〕雜給料

四味理仲丸廿劑○中 牽牛子丸五劑所須○中 牽牛子三斤十三兩

〔廣益地錦抄四〕牽牛子 あさがほの實也、はなに白紫、淺黃、紅櫻色あり、藥種にはむらさき花さくを用ゆ、

〔四方の硯月〕いつの時にカ有けん、西國に經濟の志ある人國の窮乏をなげき、國守に富國の術をすゝめて、堤に水蠟樹イボクワと唐牽牛子とを、多く植しめけるが牽牛子は油に製すとなり、この國それよりして、大富強國となりぬといふ、管子の意に通せる人なるべし、

〔今昔物語二十八〕越前守爲盛付六衛府官人語第五

今昔、藤原ノ爲盛ノ朝臣ト云フ人有ケリ、○中 早ウ此ノ爲盛ノ朝臣ガ謀ケル様ハ、此ク熱キ日平張ノ下ニ、三時四時炮セテ後ニ呼入レテ、喉乾タル時ニ、李鹽辛キ魚共ヲ肴ニテ、空腹ニ吉クツ、シリ入サセテ、酸キ酒ノ濁タルニ、牽牛子ヲ濃ク摺入レテ吞セテバ、其ノ奴原ハ不痢デハ有ナムヤト思テ、謀タリケル也ケリ、

〔福富草紙〕此女は七條のとね翁の妻にてさぶらふ、あやしのへひりの秀武、きなにはかされ、朝良の實をすきたれば、そののちかくひ候へば、心をみさせ給くすりを給べき也、ひでたけと申すやつのわざにてさぶらふ翁をすかして、朝良のみを十つおいらすかせてさぶらへば、其後はらたれとけて、はぎうのみづをいだすやうにつかまつれば、としおいたるもの、かくさぶらへば、なにをたのみさながらふべきぞ、うねべどの、たすけさせおはしませ、朝良のみは、ひとつだに腹とくる物なるを、さてすきてんには、よき事ありなんや、さりとともこの藥をすきては、けしうはあら